

テーマ:

凜々子ジャムは魔法の味 ～伝えよう!! 凜々子のよさ～

新潟県新潟市立真砂小学校

松澤 真実 先生

西野 智美 先生

●特別支援学級2～6年

●生活単元学習、国語科

この活動の特徴

「凜々子」活用のポイント①

観察しやすい環境作りで
週1回の観察を楽しく継続

「凜々子」活用のポイント②

誰もが楽しく取り組める
新聞づくりで
「伝えたい」気持ちがアップ!

「凜々子」活用のポイント③

「凜々子ジャム」をたくさん
作って、みんなで食べて
トマト嫌いを克服!

活動のねらい



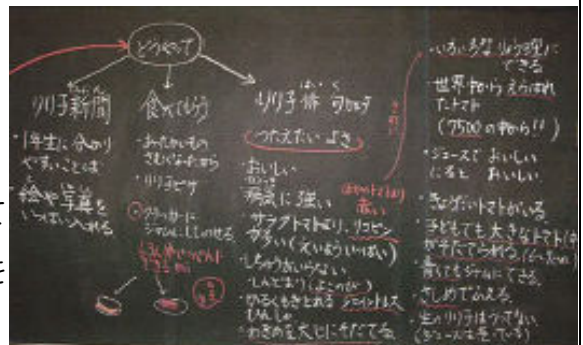
- 仲間と協力し愛情を持って育てる中で、思いやりの心を養い、収穫の喜びを味わう
- 自分なりに工夫して、観察カード、グラフに記録し、まとめる
- 「凜々子の良さ」を「だれに・何のために・どのようにして」伝えるかを考え、企画・運営・発信し、食への関心を高め、学校・家庭・地域へ交流の輪を広げる

活動の概要と流れ

対象学年：特別支援学級2～6年生（9人）

実践期間：5月～12月

時期	学習活動
5月～ 常時活動	・「凜々子」の他にミニトマトと数種類の野菜を植え、生長の違いを観察する。 ・毎週月曜日に紙テープや写真を使って、生長の変化を記録していく。
6月中旬～	・病気が発生。児童が自主的に調べて対処し、農薬を使わずに症状が回復。
7月	・国語科の作文単元で「凜々子新聞」を制作、参観日に発表する。
夏休み中	・保護者協力のもと、交代で各自2回ずつ水やり、手入れ、観察を行う。
7月～10月	・収穫したトマトと野菜を使って、ピザ、ジャムなどの調理実習を行う。
11月～	・収穫した他の野菜とともに「凜々子」の加工販売を行う。
10月	・凜々子のおいしさを伝える2枚目の新聞、グラフを各クラスで制作し、
11月	文化祭で教室掲示する。 ・参観日に親子クッキングを行い
12月	感謝の気持ちを伝える。 ・1年生との相互交流で、どうやって 「凜々子」のおいしさを伝えるかを 考え、試食会とカルタ会を行う。



ここがポイント！ 取り組みの工夫

学級園の作付け計画と配置の工夫で、栽培がスムーズにスタート！

「凜々子」の良さを見つけやすいよう、4～6年生（1組）はミニトマト、2～3年生（2組）は「凜々子」の観察担当と決め、トマトの他にサツマイモやラディッシュ等、生長の形態が異なる野菜を植えて、育ち方の違いに気付きやすくした。

作業に配慮が必要な子どもには角地を割り当て、作業しやすくしたり、自分の苗を大切にできるよう、ネーム札と色で視覚化した。

そして、毎週月曜日を畑の手入れと観察の日と決め、活動をスタートした。



手前が「凜々子」、右奥がミニトマト

生長が一目で分かる工夫と得意の俳句で、楽しく観察記録

昨年からは毎日俳句日記をつけており、定植時に「りり子ちゃん 風にまけるな がんばって」と詠ん

だ児童がいた。そこで観察カードに俳句欄を設け、発見したことを句に残していくことにした。作業をしながらのつぶやきは、担任と介助員が問い返し、記録するようにした。

また、生長の違いが一目で分かるよう、紙テープを使って草丈を計ったり、目印のモールをつけて生長とともにモールが上がっていく様子を観察した（写真下）。



また、着果後の実の変化は、写真で記録。



夏休み中は、保護者の協力のもと交代で全員が2回ずつ、水やり、手入れ、観察を続けた。

観察記録を使った新聞作りで、活動の様子を発信！

国語科単元での「凜々子新聞」づくりでは、1枚目は時間をかけて観察カードや写真、調べたことを1つずつ記事にまとめ、参観日に発表した。2枚目の凜々子のおいしさを伝える新聞、グラフは、写真や観察記録文を添えて分かりやすくまとめることができた。文化祭で掲示すると他クラスの児童や保護者、地域の方が熱心に見てくれ、活動のようすを多くの人に発信することができた。



収穫した野菜で加工販売。販売時の工夫がキラリ★

昨年のお菓子の販売活動の経験から「凜々子」を売りたいと意見が出て、畑で収穫した野菜とともに、ピザと凜々子ジャム入り人形焼を作って販売した。試食やくじ引き、おまけ、割引券など販売方法を工夫し、当日は大盛況となった。

興味・関心を高めた取り組み

トマトのイメージを変え、交流を深めた「凜々子ジャム」

7月から10月にかけて、子どもたちのアイデアを取り入れてメニューを決め、収穫した野菜を使って調理実習を行なった。中でも「凜々子ジャム」はどうしてもトマトが食べられなかった職員や、食べられても「おいしい」とは一度も言わなかった子どもも喜んで食べた。

1年生に凜々子のよさを伝えるには、新聞だけでは伝わらないのでは、との意見が出て、「凜々子ジャム」のカナヅペを試食してもらうことにした。試食前にクイズで何のジャムか問うと、「莓」「いちじく」と答えが出て、トマトと聞くと驚いていた。1年生にはトマト嫌いの児童が8人いたが、周囲の「おいしい」の声に励まされて全員が食べ、驚き、喜ばれた。



「凜々子ジャム」は、トマトという珍しさ、色の美しさ、子どもに親しみやすい味の良さ、高い保存性、少量で大勢が楽しめる、手軽に作れる、未熟な実も使える等、活動しやすく、食への関心を高める効果の高い素材であった。子どもたちは「トマト嫌いが好きになる魔法の味」だと感じたようだ。

子どもたちの気付き、実践の成果



命の育ちを知り、植物への思いやりが感謝の心を育む

週一回の観察では、めあてを明確にし、1組は実寸大グラフ、2組は記録カードと俳句を毎回残していった。これがトマトへの愛情を育み、後半の新聞づくりやイベントへの意欲につながった。

2組は「凜々子」のわき芽も捨てたくないと思いを込めて挿し芽をして、1組にプレゼントした。こちらも立派に実をつけ、収穫の喜びは倍になった。

6月中旬には病気が発生。すると自主的に本で調べたり、祖母に聞いたりして対処し、天候の安定とともに回復、農薬を使うことなく収穫することができた。

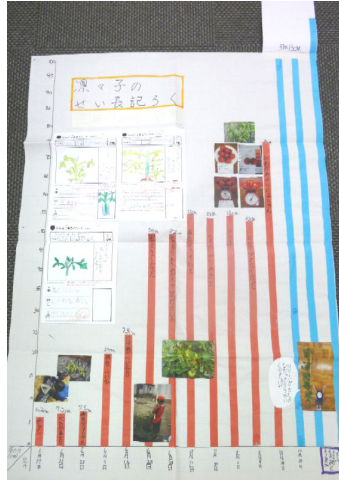
そして、11月の参観日には何度も作った「凜々子ジャム」で保護者に感謝を伝え、畑の恵みにも感謝する和やかな会を開くことができた。



実践で分かった新聞づくりやグラフ制作のすばらしさ

新聞づくりは難しいように見えるが、経験に基づく観察カードと、写真や調べた本等の視覚情報が活かしやすく、記事も短く区切って制作できる。作文では集中することが難しい児童も最後まで楽しみながら制作していた。また

紙テープを使ったグラフ制作は、毎週の記録が視覚化されていき、さらに2種類のトマトを比較したことで、生長の特性が一目で分かる良さがあって、有効だった。



さらにこれらを使って、文化祭などで発表したことは、自分の活動に対する感想がもらえるため、子どもたちの達成感が得られやすいことも分かった。



発表で得た自信が、次の「伝えたい」活動につながる

1年生との相互交流では、“来年野菜づくりをする1年生にりり子のおいしさを伝えよう”と目標をたて、どうしたら伝わるかを話し合った。新聞だけでなく食べてもらおうとか、俳句でカルタを作ろうなど、様々なアイデアが飛び出した。これまでに作った俳句を整理し、足りない句は分担して作ってカルタを完成、1年生に楽しく伝えることができた。その後、各学年の交流学級との試食会に発展、さらに交流が深まった。

先生から一言！ 実践を通して

ティーチャーズガイドで他校の実践を見て「凜々子」に強く興味をもち、今まで別々の単元として活動してきたことを「凜々子」を核にした年間を通した食育活動に組み直し、活動を深めたいと考えました。「凜々子」という珍しいトマトを栽培したことが、子どもたちの「伝えたい」思いを高めていったのだと思います。

また、新聞づくりによって他クラスの児童や家庭、地域へ自信をもって発表できるようになり、イベントを通して双方向の交流が図れたことは、活動の大きな成果となりました。

受賞理由



栽培場所の選定から、比較栽培、観察時の工夫、グラフや新聞作り、そして「凜々子ジャム」作りや加工販売、文化祭での発表。たくさんの活動があるけど、一つ一つが次の活動へとつながっていて、最後は大きな成果と子どもたちの達成感が得られた、ただただ感服しました！観察記録も新聞作りも、大変そう・・・と思ったけど、みんな楽しみながら取り組むことができたみたいだね。新聞の文字はとても丁寧に書かれていて読みやすいし、グラフや写真も見やすく、俳句は「なるほど！」と感心するものばかり。みんなが生き生きと新聞にまとめた様子が目に浮かんだよ。他の学校でもぜひ取り入れて欲しい、アイデア満載の実践です！